

第102回番組審議会議事録

(株)中国コミュニケーションネットワーク

FM ちゅーピー 76.6MHz

開催年月日 令和3年8月12日(木) 午前11時

開催場所 中国経済クラブ(中国新聞社8階)

委員:総数7人

出席委員(敬称略)

委員長 川島 宏治(フリーキャスター)

委員 山根 恵子(ロジテックベベ経営)

委員 中川 圭(乳がん患者友の会きらら理事長)

委員 安達 伸生(広島大大学院整形外科学教授)

委員 中村 靖富満(やまだ屋社長)

委員 向井 良(弁護士)

委員 木ノ元陽子(中国新聞社文化担当部長)

会社側出席:

社長兼放送局長

小見山 文男

制作担当

堀部 正拓

議題

一、開会挨拶および経営報告

一、番組試聴「くるみるちゃんねる」

一、ご意見・ご感想

一、訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告

◆「くるみるちゃんねる」(8月6日放送分)

金曜日夕方の生放送番組「週末おでかけステーション」を4月にリニューアル。中国新聞サービスセンターの折り込み広告や無料チラシ宅配サービス「くるみる」の魅力を飯村徳穂とあらきあきゆきの2人が紹介する番組です。この日は「おうちで楽しむ焼きたてパン」の特集をテーマに、インスタグラマーの泉田文佳さんが出演して紙面の内容を話しました。

<番組に対する委員の意見・感想>

- ・ラジオの特性は、イベントの告知で集客力があるなど、さまざまなものがあるが、グルメ系の話題については視覚の情報が必要なのでラジオでは難しい。そんな中、しゃべり手のフォローがうまかった。パン作りの話題だったが、やはり視覚的な情報がないとわからない人にはわからない。例えばグループ会社のケーブルテレビなどお互いに同じ話題を取り上げて情報を補完しあう手もあるかもしれない。
- ・最近のラジオやテレビは紙面やウェブとの連動企画が多いが、やはりこの番組の場合は紙面の「くるみる」がないとよくわからず、ラジオだけで広げていくのは難しい。たとえば他局ではSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)のインスタグラムなどを番組と連動して使っているところもある。
- ・グルメの話題をラジオで聞くのは難しい。パーソナリティーの飯村さんはたいへん話がうまくて、ファンが多く、インターネット放送を通じて全国からメールがくるというのも理解できる。テレビ、SNSなどさまざまなメディアがあるが、インターネットのサービスの場合それは使わない人や興味がない人にとっては面白くないかもしれない。
- ・飯村さんのしゃべりが印象的だったが、紙面がないとどんなパンを作ったのかわかりにくく、作り方をラジオで言っても頭になかなか入ってこない。「くるみる」自体をPRする目的だったのであれば、紙媒体の魅力が伝わりにくかったと思う。
- ・ラジオで料理を伝えるのは難しいが、テンポが良くて楽しい番組だったと思う。ただ、BGMが少し大きく感じた。「タコはタウリンが豊富」など、食品の成分まで話題にしてしゃべりがうまかった。一緒に出演している芸人さんにももっと騒いで盛り上げてほしかった。
- ・金曜の夕方の陽気で明るい番組。休みに向けて気持ちを切り替えていくのによい放送時間帯だと思う。ただやはり紙面を見ないままだとイメージがわきにくい番組だ。「くるみる」の配布日時と番組の放送時間帯についてもよく考えてほしい。
- ・紙媒体の紙面を作っている身としては、どのようにして若い人に読んでもらえるか日々苦心している。最近はSNSでの情報発信も増えた。他媒体とのコラボを考えるうえで、この番組は大変勉強になった。ラジオと共同作業をする際に、どのような紙面の作り方や展開の仕方をすれば相乗効果が高まるかを、番組を聞きながら考えた。

◆訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告

▽番組での訂正やリスナーからの番組に関する苦情についてはありませんでした。

▽8月6日 広島市中区で開かれた平和記念式典を中継する特別番組を放送した。

以上